

2020年9月30日
日本ガイシ株式会社

設備更新により納入したNAS電池が運転開始

15年にわたる運転実績で長寿命を実証、更新へ

日本ガイシ株式会社(社長:大島卓、本社:名古屋市)が株式会社関電工(本社:東京都港区)から受注し、日立オートモティブシステムズ株式会社(本社:東京都千代田区)佐和事業所(茨城県ひたちなか市)に納入した電力貯蔵用NAS[®]電池がこのほど、運転を開始しました。既設NAS電池の15年間の運転実績が評価・信頼され、電池設備の更新に至りました。

当社は2004年、日立オートモティブシステムズ株式会社佐和事業所に東京電力株式会社(当時)を通じてNAS電池を納入しました。需要が少ない夜間電力をNAS電池に充電し昼間に放電する電力負荷平準化による最大電力の削減(ピークカット)に使用され、15年の長期にわたる稼働実績により更新が決定し、7月1日から運転が開始されました。東京電力株式会社を通じ電力需要家に設置しているNAS電池182,000キロワットのうち、運用期間15年を迎え更新されたのは本件が初めてです。

NAS電池の運用は東京電力エナジーパートナー株式会社(本社:東京都中央区)の100%出資子会社である日本ファシリティ・ソリューション株式会社(本社:東京都品川区)が担い、電力負荷平準化に加え、デマンドレスポンス(需要家による電力消費の調整)にも活用される予定です。当社は今後も、東京電力エナジーパートナー株式会社とデマンドレスポンスで活用いただくなどの新たな取り組みを通じて、既設NAS電池の更新に繋げていきます。

NAS電池は大容量で長時間にわたる高出力の電力供給が可能のため、負荷平準や非常用電源のほか、再生可能エネルギーの安定化やスマートグリッドの構築、デマンドレスポンスなどさまざまな用途で利用され、2002年の事業化以来、全世界で200カ所以上に設置されています。期待寿命が15年と長いことも特長で、すでに複数の設備で15年の運用期間を迎え更新された実績を持っています。

当社は今後、更新時期を迎える多くの設備について、長期間の運転実績を持つ大容量蓄電池としてNAS電池の提案・販売活動をさらに推進するとともに、世界に広がる新たなエネルギーソリューションに対応するシステムの提供により、電力の安定供給と効率利用を支え、低炭素社会の構築に貢献していきます。

<納入したNAS電池の概要>

設置場所:日立オートモティブシステムズ株式会社佐和事業所(茨城県ひたちなか市)

定格出力:3,600キロワット

定格容量:25,920キロワット時

用途:電力負荷平準化、デマンドレスポンス

運転開始:2020年7月1日



運転を開始したNAS電池

■NAS電池製品情報 <https://www.ngk.co.jp/product/nas/>

日本ガイシはSDGs達成に貢献しています。

NAS電池は、再生可能エネルギーの安定供給を実現し、気候変動対策に貢献します。
また、都市のエネルギーマネジメントを革新し、持続可能な都市をつくれます。

